

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0772500401		
法人名	医療法人社団小野病院		
事業所名	グループホーム ラポール		
所在地	福島県耶麻郡北塩原村大字北山字地藏堂2904		
自己評価作成日	令和2年9月23日	評価結果市町村受理日	令和2年12月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/07/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県福祉サービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	令和2年11月18日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者、ご家族の思いを大切に、その人らしく、馴染みの暮らし、馴染みの関係が継続できるよう支援しています。会いたい方、行きたい場所に出かけられるよう支援しています。敬老会など村の行事には積極的に参加している。</li> <li>・生き生きとした生活が送れるよう、家事、畑仕事、裁縫、工作など、本人が活躍できる場の提供を行っている。</li> <li>・隣接する保育園とは、日常的に交流している。秋にはさつま芋堀を一緒に行ったり、お遊戯会にお呼ばれしている。</li> <li>・季節ごとに行事、掲示、献立を工夫しており、季節感を感じて頂いている。</li> </ul>
---

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 近隣の農家から野菜の差し入れがあるなど地元住民との交流が図られている。現在は自粛中であるが、地域の敬老会などの行事に参加し、子どもの緊急避難所の指定を受けるとともに、利用者が作った雑巾を小学校へ贈呈するなど地域とのつながりを重視して積極的に交流を図っている。</li> <li>2. 一人ひとりの利用者の残存能力を活かし、紙縫りの貼り絵・裁縫・畑仕事・調理の下処理など本人が望む様々な活動を支援し、利用者の張りのある生活づくりに努めている。</li> <li>3. 毎週日曜日は、利用者の希望によるお楽しみメニューの日としている。また、利用者の誕生日には本人の希望の食事をメニューに取り入れている。さらに、コロナ禍で外食ができない状況が続いているため職員手作りの寿司バイキングなどを行い、楽しみのある食事の提供に努めている。</li> </ol>
---

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者の</li> <li>2. 利用者の2/3くらいの</li> <li>3. 利用者の1/3くらいの</li> <li>4. ほとんど掴んでいない</li> </ol>	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族と</li> <li>2. 家族の2/3くらいと</li> <li>3. 家族の1/3くらいと</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 毎日ある</li> <li>2. 数日に1回程度ある</li> <li>3. たまにある</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ毎日のように</li> <li>2. 数日に1回程度</li> <li>3. たまに</li> <li>4. ほとんどない</li> </ol>
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 大いに増えている</li> <li>2. 少しずつ増えている</li> <li>3. あまり増えていない</li> <li>4. 全くいない</li> </ol>
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての職員が</li> <li>2. 職員の2/3くらいが</li> <li>3. 職員の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての家族等が</li> <li>2. 家族等の2/3くらいが</li> <li>3. 家族等の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどできていない</li> </ol>
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ほぼ全ての利用者が</li> <li>2. 利用者の2/3くらいが</li> <li>3. 利用者の1/3くらいが</li> <li>4. ほとんどいない</li> </ol>				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	住み慣れた地域の中で、その人らしく生き生きと生活を送れる事を理念の柱に於き、理念について、業務会議や日常的に職員間で話し合い、共有している。	現在の理念は5年前に改定したものであるが、毎年、年度末の業務会議で話合って理念の見直しを行っている。理念は、ホール・職員室・職員トイレに掲示し、いつでも確認できるようにしている。また、毎月の業務会議では管理者が理念に基づくケアのあり方について説明し、実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事には積極的に参加し、交流を図っている。夏祭り、芋煮会には、地域の踊りや歌のボランティアの方々も参加して頂き交流を図っている。又、子供100当番の家として、登録し、地域に協力している。	現在はコロナ禍のため自粛中であるが、村の敬老会・運動会・交流フェスタなど地域行事に利用者とともに参加し、地域住民との交流を積極的に図っている。また、通学路の避難場所として「子供110番の家」の指定を受け、さらに利用者が縫った雑巾を地元小学校へ贈呈するなど、地域との関係づくりに努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の行事に参加し、交流してきた事により、認知症になっても、地域の中で生き生きと暮らしていけるということを発信できている。又、村民フェスティバルにて、ホームの紹介、活動内容等を発表し、地域の方々へ発信できた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	日々の暮らしや行事等の活動内容を報告している。又、事業所の課題を話し合い、サービスの向上に活かしている。避難訓練の様子を見ていただいたり、一緒に行事に参加して頂いたり、ホームの応援団となって頂いている。定期的に駐在所の方にも参加して頂き、助言等頂いている。	運営推進会議には、法人理事長、同法人の3事業所の管理者も参加し法人全体で情報の共有と課題解決に取り組んでいる。今年の4月以降は新型コロナウイルスの影響で開催できないが、各委員に資料を送付し意見を伺っている。委員の意見や協力により畑の借り上げが実現するなど、出された意見を運営等に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	常日頃から相談又は、情報を共有するなど、お互いにサービスの質の向上に向けた取り組みをしている。定期的に開催される、地域ケア会議に参加し、情報の交換、地域の課題を話し合っている。	役場の担当者は運営推進会議の委員になっており、行事にも参加し事業所の状況等に精通している。また、管理者は地域ケア会議に出席し、役場担当者や関係機関との情報交換や地域課題の共有を図っている。役場が近くにあることもあり、何かあれば出かけたり電話等で相談や報告を行うなど協力関係が築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、ホーム内外の勉強会にて学ぶ機会を多く持ち、全職員が理解している。身体拘束によって入居者が受ける身体的、精神的弊害について理解し、拘束のないケアを実践している。	事業所内で勉強会を定期的に開催し、身体拘束により利用者が受ける精神的・身体的な苦痛や弊害などについて理解を深め、拘束をしないケアに努めている。スピーチロックの防止については、接遇研修会の中で周知を図るとともに、日頃のケアの中で互いに注意し合うことで防止に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待についての理解ができるよう、ホーム内外の勉強会に参加し、学ぶ機会を多く持つようになっている。入居者とは、常に会話をする時間を取り、どんな小さな変化にも注意し、虐待が見過ごされないよう、注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	ホーム内外の勉強会に参加し、権利擁護に関する制度を学んでいる。以前、後見人制度を利用されていた入居者がおられ、制度について理解できている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な時間を取り、一つ一つ理解、納得して頂いたか確認しながら行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族とは面会時や行事、計画書の説明の時など、何でも話せる雰囲気づくりをしている。推進委員が訪問した際には、入居者に気軽に声を掛けてくださり、意見の吸い上げを行っている。	利用者の意見は、日頃の会話を通じて把握するように努めている。家族の意見は面会やケアプランの説明の折に話しやすい雰囲気づくりに心がけながら、聞くようにしている。また、運営推進会議委員になっている家族からは、会議で家族代表として率直な意見を出してもらっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	業務会議をはじめ、職員の気付きを大切に、いつでも、意見、提案ができる職場環境を作っている。法人の代表者は、常に事業所を訪れ、職員に声をかけたり、話し合いをしている。又、行事にも参加してもらっている。	申し送りや業務会議で職員の意見や提案を聞いている。また、管理者は必要に応じて職員との個別面談を行い、悩みを聞きながら意見や要望の把握に努めている。理事長による個別面談も行われ、法人として職員の意見や要望の把握に努め、出された職員の意見を運営に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々に応じた勤務体制にて、働きやすい環境作りを行っている。又、資格取得を推進し、スキルアップが図られている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外での研修会、ホーム内の研修会を開催し、職員の質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣市町村のグループホーム連絡会に参加している。課題を持ち寄り、勉強会を行っており、サービスの向上に活かされている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査に伺う際には、馴染みの深いケアマネージャーに同行してもらい、不安なく、本人が困っている事などを話して頂ける雰囲気づくりをしている。本人の思いを受け止め、信頼関係が築いていけるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込みの際にご家族が困っている事、不安に思っている事をしっかりと受け止め、サービス導入時には、不安、問題等を共有し合いながら、より良い関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族に協力して頂き、生活歴、本人とご家族のおもいを引き出し、今、必要な支援を見極めている。ケアマネージャーからもアドバイスをもらい、支援に繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お一人お一人が役割を持ち、活躍できる場を提供している。行事の際には、風習を教えたり、生活のあらゆる場面で学ぶ事は多く、共に尊重しながら、支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人のおもいをご家族と共有し、共に支えていけるよう、協力を頂いている。毎月の近況報告の手紙にご本人のおもいをのせ、共有して頂き、協力して頂いている。他科受診については、付き添いをお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所を把握し、継続的な交流が図れるよう支援している。毎年村の敬老会に参加し、馴染みの顔に会うことを楽しみにしている方や、馴染みの美容室に通われたりと、関係が途切れないよう支援している。	村の敬老会に毎年参加し、利用者が知人や友人と交流できるよう支援している。また、利用者の知人が野菜販売をしている道の駅などに出かけ、馴染みの人との関係継続に努めている。さらに家族の協力を得て、正月やお盆の外泊や外泊、墓参りなど実家との繋がりが途切れないよう支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれに、生活歴、性格の違う利用者が共同生活することを踏まえた上で、できる力を発揮し合いながら、利用者同士が共に支え合えるように支援している。気の合った方同士を近くの席にしたり、孤立しがちな方には職員が間に入り交流が図れるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用終了時には、利用終了後も必要に応じて、相談に応じることをお伝えしている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	その人らしく暮らして頂く為に、日常の何気ない会話の中から本人のおもいを引き出し、全職員に伝わるよう、記録に残している。又、センター方式の活用により、本人の意向の把握に努めている。	普段の利用者との何気ない会話を職員間で共有し、センター方式を活用して本人の思いの把握に努めている。特に、入浴介助など利用者2人だけになる場面での会話を通して、日頃の思いの把握に努めている。会話が困難な利用者の思いは、態度や表情から汲み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式の活用により、個々の生活歴を把握し、馴染みの暮らしの継続に向けた支援をしている。又、在宅でのケアプランも参考にさせていただき、支援の継続に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の様子や状態、行動、言動等個別記録に残し、職員間で情報を共有しながら支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、ご家族のおもいを大切に介護計画を作成している。毎月個々の担当者が経過を記録し、三ヶ月毎にカンファレンスを行っている。課題が出た場合は、その都度話し合っている。	入居前に利用していた居宅サービスのケアプランと実態調査時のアセスメントをもとに、入居時に1カ月の暫定ケアプランを作成している。入居後に、本人の生活状況等を確認しながら、本人や家族の意向を踏まえてケアプランを作成している。ケアプランの短期目標を3カ月として、その都度モニタリングを行い状態変化等に合わせて見直しを図っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを個別に記録している。毎日の申し送り、定期的に行われるモニタリング、カンファレンスにて、情報を共有し、介護計画の見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	一人ひとりにあったニーズに対応できるよう、柔軟に対応している。家族の支援が難しい時は、受診に付き添ったりとその時にあった支援サービスを行えるよう努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事の参加、文化祭への出展等にて、本人の力を発揮する機会を作っている。又、地域の方にお借りした畑でさつま芋を育て、保育園児と共に芋ほりを行い、収穫の喜びを園児と楽しませている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を確認し、適切な医療が受けられるよう支援している。ご家族がお連れする場合は、受診時連絡票をお渡しし、情報を共有している。又歯科往診して頂ける体制を取っている。	従来からのかかりつけ医を継続し受診している。かかりつけが特に決まっておらず協力医を希望した場合は事業所に対応し、それ以外の医療機関は家族が同行し、帰って来た時に受診結果を確認している。職員が対応した場合の受診結果は家族へその日のうちに電話で報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力医療機関の看護師と情報の共有をし、適切な医療が受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族、かかりつけ医、医療機関の相談員と情報交換を行い、早期退院に向けた話し合いをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、看取りに関しての指針を契約の段階で説明、同意を得ている。状態が変化した場合は、その都度、家族の意向を確認しながら、事業所ができる最大限の支援を行っている。	入居時に事業所の「重度化対応に関する指針」を説明し、利用者・家族の同意を得ている。看護師配置が無く、医療連携体制加算は取っておらず、看取りも実施していないため、重度化した際には、家族の意向に沿った病院・施設等への移動ができるよう支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に内部研修を行い、急変や事故発生時に即対応できるようにしている。又、普通救命講習を受けている。応急手当普及員の資格を持っている職員もあり、緊急時に直ぐに対応できるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	日中、夜間想定の方災避難訓練。地震、水害、土砂災害避難訓練を実施している。ホームには、防災無線が設置しており、災害発生の際を瞬時に受け取ることができる。推進会議で避難訓練の様子を見て頂いたり、一緒に煙体験を行った。	火災(夜間想定を含む)や水害・台風等を想定した防災訓練を、消防署や地域消防団・運営推進会議の委員の協力を得ながら、年に4回実施している。また、ご飯・缶詰・飲料水・ガスコンロ等が備えてある。参加者全員で煙の中を駆け抜け、火災時の体感訓練もある。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの人格を尊重し、個々に合った言葉かけをしている。プライバシー保護の研修会もっており、特に排泄時の声掛けには、十分な配慮をしている。	毎年、プライバシー保護の研修会を行い、利用者の誇りやプライバシーを損ねない話し掛け方や言葉遣い、トイレ誘導の際のさりげない声掛け等、利用者一人ひとりにあわせた対応を行っている。個人情報に関わる書類の取り扱いは適切になされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、本人に選んで頂く場面作りをしている。自己決定が困難な方には、いくつかの選択肢を用意し選んで頂く工夫をしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい生活が送れるよう、その時の本人の気持ちを尊重し、個別性のある支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日の服装は、できるだけ自分で選んで頂いています。馴染みの美容室でパーマやカラーを楽しまれている方もいます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	一緒に献立を考え、食材購入に出かけ、料理を作り、盛り付け、配膳、下膳と、できることを役割分担で行って頂いている。畑で収穫した野菜も献立に取り入れ、作る喜びも味わっている。	法人病院の栄養士が作成した献立であるが、日常会話から利用者の好みを把握し、週に1日はお楽しみ献立を提供している。料理の下準備・配膳・後片付け等利用者の出来ることは手伝ってもらい、食事は職員も一緒にテーブルを囲み、会話しながら楽しめるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日の食事、水分摂取量を確認し、記録している。一人ひとりの状態に合わせた食形態の工夫、量、水分摂取の工夫をしている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの声掛けや見守りを行い、利用者の状態に応じた、介助を行い、口腔内の清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄サインや排泄リズムを把握し、声掛け誘導を行っている。日中はトイレ夜間はオムツ、日中、夜間でパットの大きさを変えてみると、個々に合った工夫を行い、自立支援を行っている。	排泄チェック表で利用者の排泄パターンを把握し、身振りや表情・動作等の排泄サインを見ながら、自尊心や羞恥心に配慮したトイレ誘導と声かけを行い、自立に向けた排泄支援を行っている。その結果リハビリパンツから布パンツとパット使用に改善された利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	乳製品、発酵食品、食物繊維を多く含む食材を提供している。又、適切な水分摂取、適度な運動を行って頂いている。水分摂取が困難な方には、ゼリーを作り提供している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	生活習慣を把握し、一人ひとりの生活リズムを大切にしている。お風呂の好きな方にはゆっくりと入浴して頂けるように時間を取っている。季節が感じられるように、菖蒲湯や柚子、季節の花などを浮かべ、楽しんで頂いている。	以前は、毎日入浴支援を行っていたが、ゆっくりと入ってもらえるよう利用者の習慣や希望に合わせて、清潔保持のため1日おきの入浴としている。また、菖蒲湯・柚子湯でリラックス効果をたかめ、入浴が楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	生活習慣を把握し、個々に対応している。又、身体状態やその時の体調を考慮して休息して頂いている。寝具も馴染みの物を使用して頂いたり、安心してお休みになれるような声掛けをしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の情報や副作用のリスク管理ができるよう、一覧表(内服のしおり)を作成している。状態の変化については、医師に相談しカルテに記入し情報を共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴を把握し、その人らしく個々の能力に合った生活ができるよう役割を持ち、趣味も活かし、活躍の場を提供している。裁縫や編み物が好きな方。工作に熱中されている方。畑仕事で収穫の喜び、計算を解かれて達成感を得られている方など、張り合いをもって生活されている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望に添って、ドライブ、買い物、散歩等、できるだけ外へ出る機会を作っている。地域の行事に参加する際には、家族や地域住民の方々に協力して頂きながら、外出の支援に努めている。	利用者の希望に沿って散歩・買物・ドライブ(花見・紅葉狩り)等の外出支援を行い、地域の協力を得て地域行事(運動会・敬老会・交流フェスタ等)に参加している。また、家族の協力で受診・自宅への宿泊・なじみの美容室等に出掛けている。しかし、今年はコロナ禍にあり、家族対応の病院受診だけとなっている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を持っていないと不安に感じる方には家族と相談し、持って頂いている。又、買い物や、外食の際などで、自分で支払う機会を作っている。又、地域の商店に協力してもらい、移動販売時に支払って頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時には、何時でも電話をかけられるよう、支援している。遠くの家族からプレゼントが送られてきた時は、お礼の手紙を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間、廊下には季節を感じられるような、利用者の方々が制作したものを飾っている。湿度、温度等に配慮し(加湿器の使用)居心地よく過ごせるように配慮している。	居間兼食堂は明るく鉢植えが置かれ、ゆったりと過ごせる空間となっている。また、中庭には野菜が植えられ、生育する過程を利用者が楽しめる一角となっている。テーブルには感染症対策の亚克力板を設置し、壁には利用者の手作り作品や外出行事の写真等が掲示され安心して居心地よく過ごせる環境となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間、和室等、自由に利用して頂いている。居間の席は、気の合った利用者同士で過ごせるよう配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	居心地よく、安心して過ごせるよう、馴染みの物、大切にされている物、自由に持ち込んで頂いている。家族の写真、家具等、馴染みの物が置かれている。	居室には自宅で使い慣れた裁縫道具・時計・ぬいぐるみ等を持ち込んでもらい、壁には、家族の写真や自分で作った作品等を飾り、利用者が居心地よく、安心して過ごせるよう配慮されている。平屋造りの居室の窓は掃き出し窓となっており、有事の際の避難には、有効な造りとなっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホーム内はバリアフリーになっており、安全に生活できるようになっている。車椅子のまま台所で作業ができたり、洗濯干しの高さが調整できたりと、生活環境のあらゆる所に自立を意識した工夫をしている。		